

創立 100 周年によせて(光明 100 年誌より抜粋)

大正 9 年 4 月に泉南郡南掃守村立南掃守上尋常小学校に入学しました。校舎は 6 教室と職員室と物置だけで、先生は 6 人、校長先生も受け持っておられました。先生は羽織袴で、生徒は縞や紺がすりの着物で草履履きです。たまたま靴をはくと皆から珍しがられたものです。(中略)1 年の前期ごろまで石板と石筆で、「ハナ ハト」「一、二、三、・・・」と書いては消しました。カバンがなく、風呂敷に包んで腰に巻きました。昼食は弁当がないので午後授業のあるときは往復駆け足で食べに帰りました。(中略)学校の勉強ものんびりで、先生の留守や体操の時間など、裏山や赤山に行き遊び回りました。春はわらび、つつじ折り、夏はため池で泳ぎ、秋はきのこを取って喜び、兎追いに木登りと懐かしく思い出されます。(卒業生)

私は昭和 7 年 4 月、母に手をひかれ初めて南掃守上尋常小学校の校門をくぐってから 6 年間お世話になりました。今から 41 年前、私も本校の 1 年生でした。そのころの私たちは、でこぼこの道を雨の日には、番傘をさして、遅刻しないように通学しました。着物に袴姿の女の先生に、修身、国語、算術、唱歌、体操の科目を一生懸命勉強して、学期末には平均 10、操行甲の成績表をもらうのを目的に頑張ったのであります。特に国語の時間、声をそろえて「ハナ、ハト、マメ、マス」と読んだこと、書き方の時間に古新聞で作った草紙に真っ黒になるまで書いたことが深く印象に残っています。

昭和 9 年私が 3 年生の時、恐ろしい室戸台風に見舞われました。それはそれはものすごい雨と風、当時の林田先生が瓦のとんでる中を、「みんな学校へこないように、家で待機するように」との声が聞こえてきたのが、今でも記憶に残っています。その時、北側の木造校舎が倒れ、すでに登校していた子どもが下敷きになりましたが、幸い誰も怪我人がありませんでした。そこで丈夫な風や地震でも倒れない教室をというので建てられたのが、現在も使用している鉄骨の校舎であります。(卒業生)

昭和 9 年室戸台風にあいました。(中略)昭和 10 年・11 年と毎日トンカン、トンカンと工事が続き、今の木造 3 棟ができあがりました。毎年、入学式頃ともなると玄関いっぱい咲く桜の古木もその頃みんな植えました。そして、毎日 3・4 人で一本を受け持って水やりをしました。「ぼくの木は元気がいい。」「いや わたしのが大きい。」などと自慢しながら育てたものです。(中略)用務員さんが、毎日快いリズムで授業の始まりや終わりを知らせてくれていました。時計とにらめっこしながら時間が来ると豆腐屋が使っているような「りん」をもって出て運動場のすみでチリン・チリンとならすのでした。その後は、現在プールで使っている鐘を玄関わきに吊るして時間を知らせていました。(元職員)



昭和 2 年頃の子どもたち



昭和 13 年頃の校舎



昔の講堂